

異文化の尊重と共生にかかわる意識の育成に関する研究（倫理）

— 多文化共生社会に参画する意識の育成を目指して —

愛知県立知立東高等学校

教諭 相原 久美

1 はじめに

現代社会は、様々な面でボーダーレス化が進行しており、日本においても、ますますその傾向が強まることが予想される。このような時代にあつては、異なる文化的背景をもつ人間同士が共通の規範を形成し、新しい社会を構成していかなければならない。

愛知県は全国的に見ても外国人の多い地域であり、異なる文化をもつ人々との共生に向けて、制度や意識を変えることが必要となっている。

ここでは、生徒たちが自分の住んでいる地域の現状について知ることを通じて、異文化との共生を考える授業を行う。そのために、身近な事実を知り、仲間との意見交流の場をつくることにより、現在の自分たちが直面している課題について考察する。そして、仲間との自由な意見交換により、一面的な考えにとらわれず、他者の意見を尊重する姿勢をはぐくむことを目指す。

2 研究の目的

高等学校の「倫理」は、人間の生き方や規範の在り方を、様々な宗教や思想家について学びながら、生徒が自身に置き換え、思索することを目指す科目である。

今回の研究ではレヴィ＝ストロースの文化相対主義を学ぶことを通じて、異なる文化を尊重し、共生の意識を養うこと、そして、自らの偏見に気づき、寛容の精神をはぐくむことを目的とした。

また、多文化共生の可能性について、グループで話し合わせることを通じて、自分の意見を主張しながら、他者の意見も聞き、自分のことを客観的に認識する力や価値判断力の育成を目指した。

3 研究の方法

まず、地元で外国人相手の相談員を務めるゲストティーチャーの講話から、自分たちが暮らす地域の在住外国人を取り巻く状況を知り、課題を明らかにする。

次の時間には、異文化に対するイメージを、ブレインストーミング及びKJ法を用いて自由に出した上で、グループごとに外国人との共生の在り方を政策としてまとめる。

2時間の授業を通じて、自身の多文化共生に対する考えの変容について振り返る。

4 研究の内容

(1) 単元 第5編 現代の諸課題と倫理 第3章 異文化理解と人類の福祉

1 異文化理解と人類の福祉 … 2時間（本時2/2）

(2) 単元の目標

現行の学習指導要領「倫理」には、「世界の様々な文化の理解」を、主体的に追究して学ぶべき現代の諸課題の一つとしている。そして、同解説公民編「倫理」では、その学び方として、「それぞれが形は違っても人間としての共通の願いから形成されてきていることの理解に立ってそれらを尊重」

することや、「自分たちの身近にも外国の人々や様々な文化との触れ合いがあることに気付かせ、日常的な課題として考えさせる」ことを挙げている。そこで、本単元ではゲストティーチャーを招き、身近な地域の在住外国人を取り巻く状況について、より具体的な内容をお話いただく。

生徒に多文化共生を自らの課題として理解させることがねらいである。

(3) 単元の指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
第1時限	日本のボーダーレス化の現状 多文化共生に向けての課題	・ゲストティーチャーの話を聞き、身近なところに多文化共生にかかわる課題があることを理解する。	・知立市役所市民協働課よりゲストティーチャーを招く。 ・多文化共生にかかわる地域での具体的な取組や課題について、講義を依頼する。
第2時限	既習内容の確認 文化相対主義 多文化共生のための政策立案	・日本文化の特徴や規範の起源を復習する。 ・身近な異文化の例を通して、いかなる文化も、それぞれの環境の違いに応じて歴史的に形成されたものであり、固有の価値をもつという見方を、理解する。 ・グループを国に想定して外国人の立場を演じ、共生の在り方について考察する。	・日本文化について、規範や宗教の歴史を復習させる。 ・異なる文化が、形成された理由や背景を考察させる。 ・自分に与えられた役割を演じることによって、異なる視点を理解させる。

(4) 本時の目標

多くの文化が共存する現状と、そこにある課題を理解し、偏見や無関心を克服しながら望ましい多文化共生の在り方を考える。

(5) 学習指導

2時間目 多文化共生の在り方

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 7分	・多文化状況	・日本に在住する外国人について、人数の多い順に国籍を挙げる（ワークシート ¹ ）。 ・愛知県および知立市に在住する外国人を取り巻く状況を、資料を基にまとめる（ワークシート ³ ）。	・前回のゲストティーチャーの講演内容について、資料を基に復習させる（添付資料参照）。	

40分		- それぞれの立場から、抱えている問題や要望、意見を自由に出し、共生のための政策や方法を考え、ワークシート[8]に記入する。 - 各グループの政策を発表する。		評価 2
まとめ 3分	本時のまとめ	話し合いを通じて、自分の考えがどのように変化したかをワークシートに記入する。(ワークシート[9])		評価 3

(6) 本時の評価計画

評価の場面	能力	評価の観点	評価規準	評価方法
評価 1	【意識】 多様性・多文化の尊重	関心・意欲 ・態度	・異文化の背景について推察し、尊重しようとしている。	ワークシート[5]
評価 2	【スキル】 異なる意見を最終的には集約する力	思考・判断	・異なる意見を最終的に集約し、政策を立案することができる。	ワークシート[8]
評価 3	【スキル】 自分のことを客観的に認識する力 他者のことを理解する力	思考・判断	・他者とのかかわりを通し、自分の考えを客観的にとらえた上で考察している。	ワークシート[9]

5 成果と課題

(1) 異なる文化を尊重することについて（評価 1）

ワークシート[5]の記述の主なものを、以下に紹介する。

体験した異文化	そのとき、その文化をどのように思いましたか	なぜそのような文化が形成されたと思いますか
・香水が強い。	・においがきついなと思った。	・香水をつける文化だから。
・肌の露出が多い。	・恥ずかしいなと思った。	・個性の表現。
・道で外国人にあった。	・少し怖かった。	・先入観から。
・AETの先生にハロウィンの話を聞いた。	・すごく盛大だと思った。	・行事を大切にしている人たちだから。

・隣のマンションに住んでいる人。	・いつもあいさつをしてくれる。	・誰とでもフレンドリーに接する。コミュニケーションを重視する。
・アメリカで若い人（18歳未満の人）が運転していた。	・危ないと思った。	・欧米では日本より個人主義が発達していて、早く一人前の大人と見なされ、免許を取ることができる。

生徒自身の異文化との接触から、その文化的背景まで考察するには至らなかった。外国文化の規範や価値観にかかわる例を学習する必要があった。例えば、音楽や食事の作法、服装やお祭り、宗教的行事などを体験する機会をつくったり、自分たちで調べた後に考察させるなどの工夫も必要であった。

さらに、異文化の特色を知るためには、自国の文化を知ることが不可欠である。年中行事や服装、儀礼など、日常生活の中にある事柄の宗教的、規範的な意味や理由を事前に学ぶことも有効であろう。

今回の事例でいうと、ワークシート[4]で日本の慣習や規範の例を挙げて、[5]の異文化との接触とを比較させる方法もあったと思う。

(2) 異なる意見を最終的に集約し、政策を立案することについて（評価2）

外国人との共生のための政策の例として、ワークシート[8]の記述の例を、以下に紹介する。

例1：子供の教育を手厚くする。
理由：外国人の子供に日本の文化を理解してもらうことにより、共生を図るため。
例2：交流の場を設けて、外国人と日本人のかかわり合いを増やす。
理由：これから先、どの国も協力して生きていかなければならないし、日本の文化が伝統を守りつつ異文化をとりこむことで社会が活性化されるから。
例3：外国人の集住都市会議を増やす。
理由：会議で行政官と外国人が対面できるため、行政に外国人の意見が反映される可能性が出てくる。

各グループ内で、日本人、中国人、ブラジル人、フィリピン人の立場に分かれ、それぞれの立場から考えられる意見を出し合った。話し合いを観察しているときは、具体的な知識が足りないため、あまり議論が深まっていないのではないかという印象を受けたが、ワークシートからは、ゲストティーチャーの話を踏まえて、それなりに議論がなされていた様子が分かる。ただし、かなり抽象的な課題の与え方であったため、具体的な事例を示した上での話し合いが必要であった。

話し合いの進まないグループに対しては、「参政権を与えるかどうかについて話し合う」という具体的な議題を提案した。参政権を与えないとすればその理由を、与えるとすれば、どのような条件で与えるかという視点から話し合わせた。その結果として、以下のような解答があった。

例1：日本に2年以上滞在し、かつそれから4年以上滞在予定の外国人に参政権を与える。 ただし、市長以上の役職に就くことはできない。
理由：日本に来てすぐの人たちの発言を認めると、和が乱れるおそれがあるが、外国人の見方、考え方は日本人にとってよい刺激となるから。
例2：外国人の参政権は認められないが、発言の場を設ける。
理由：国家という枠を維持するためには、参政権は認められないと思うが、参政権という権利としてではなく、誰もがお互いを理解し合えることを目指す方が、国家という枠にとらわれるより、親しみやすい社会になると思う。
例3：地方議会に外国人の代表者を入れる（ただし半数以下）。
理由：外国人も住みやすい環境にするため。 ただし、半数を超えてしまうと、外国人が主体となるので半数以下にする。

参政権を与えること自体には、慎重である生徒が多いが、日本に定住する外国人の意見を取り入れることは、望ましいという意見も多数あったことから、異なる立場の意見を尊重しながら、最終的に政策を考えることができたものと思われる。また、机間指導の際も、フランスでの参政権の与え方や、日本の国籍取得の条件などについて、質問があるなど、議論を深めたグループもあった。

また、感想に「私は参政権を与えることに反対でしたが、無理やり賛成派意見をつくってみたら、自分が反対していた理由が不十分になりました」というものもあり、異なる立場を尊重するきっかけとなった生徒もいたようである。

(3) 他者とのかわりを通し、自分の考えを客観的にとらえた上での考察について（評価3）

ワークシート9の記述の主なものを、以下に紹介する。

最終的には変わらなかったが、心が重かたそうになった。自分一人で考えているだけで視野が狭いし、一つのことに考えが定まらないうちに、話し合いをすることでいろいろな意見が聞けて新しい発見やものの見方ができようにならなくてとてもおもしろいと思った。他人を理解するために話し合いはやはり大切だと思った。これは、今の日本人と、日本に住む外国人との関係に於いても同じことが言えると思う。

自分の意見は、外国から来た人々を受け入れなくてはならないという気持ちから、強がりになり、話し合いを通じて、外国の人々と共に生きていくために考えられる方法はたくさんあるんじゃないかと思った。それから日本をよりよくしていくためには、まず自分が多くの良い考えがあると思う。

知事や市長だけでなく、日本、さらに全世界にその国の多数を占める民族以外の人がその地域に定住することになると思う。例えば、アメリカでは白人や黒人や先住民が暮らしている。日本も近い未来にアメリカのようになれば、制度改革、法律の整備を必ずしなければいけなくなる。しかし、最も大切なものは制度や法だけの表面的なものではなく、人の感情、つまり他人への偏見をなくすることによって、深いものだと思う。

異なる意見を知ることを通じて、自分の考えを再考することができた解答もみられた。

また、共生のためには、偏見をなくすることが最も重要で、難しい問題であるということに触れた解答もみられた。

多くの生徒は、異なる意見に耳を傾け、自分の考えを客観的にとらえることができていたかと思われる。ただし、「最終的には考えは変わらなかった」という解答が多く、異なる意見と出会うことによって、自分の考えが変わるほどの機会にはならなかったようである。

6 おわりに

シティズンシップ教育の方法に対する理解不足は否めず、実践後に反省点は出てきたが、今後の課題が明確になったことは収穫であった。

シティズンシップ教育の日本における具体的な実践方法について、今回は、間接的にではあるが異なる立場（外国人）から話を聞き、視野を広げ、意見の異なる人々が共存するためのルールを形成す

ることを目指した。しかし、新しい能力を育成するところまでは至っていない。今後実践するとすれば、まず日本文化の「他者を尊重する」という規範を学び、その歴史と、現在も自分たちの身の回りに残っている規範を理解することに重点を置いた授業を行いたい。そこから異文化の規範との共通点を見だし、尊重する方法もあると思われる。今回の実践で言うと、ワークシート[4]で日本の規範について調べさせ、ワークシート[5]で異文化の規範の例を調べるという活動にすれば、自国の文化と異文化の共通点についての考察につながったと思われる。

【参考文献】

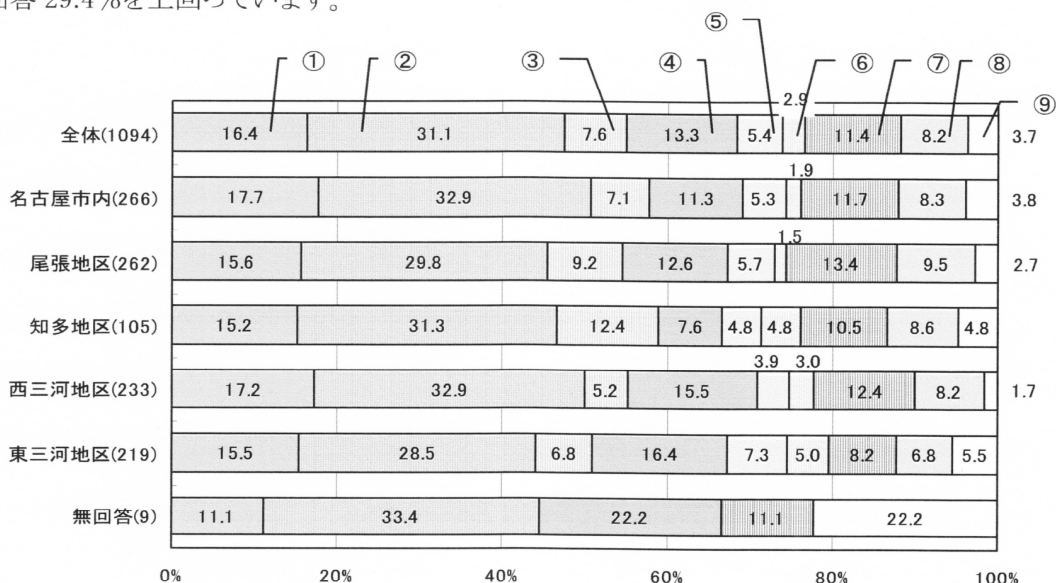
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 公民編』 1999年 実教出版

経済産業省 『シティズンシップ教育と経済社会での人々の活動についての研究会報告書』 2006年

(外国人の増加)

設問 本県に在住している外国人は現在約 20 万人で、毎年増加しています。地域に外国人が増えていくことをどう思いますか。(1つに○)

外国人の増加は「治安が悪化する可能性があり、望ましくない」という回答が 31.1%で最も多くなっています。次いで「外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので、望ましい」という回答が 16.4%、「習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こるので、望ましくない」という回答が 13.3%などとなっています。望ましくないという否定的な回答が 47.3%と、望ましいという肯定的な回答 29.4%を上回っています。



()内は有効回答数

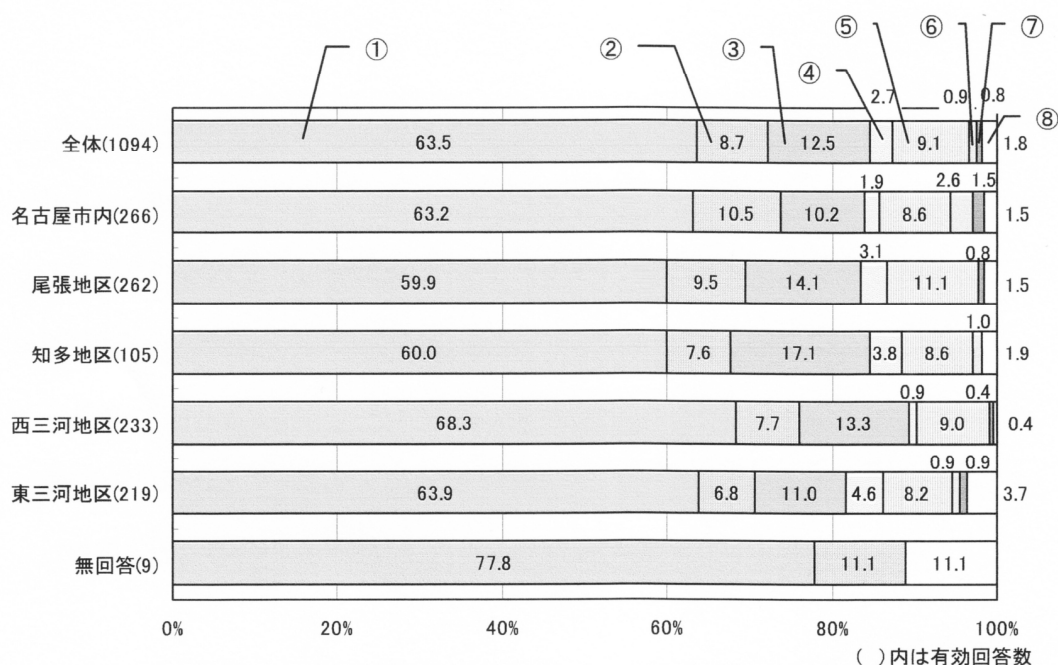
- ☐ ①外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので、望ましい
- ☐ ②治安が悪化する可能性があり、望ましくない
- ☐ ③地域で外国人と交流できるので、望ましい
- ☐ ④習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こるので、望ましくない
- ☐ ⑤地域の経済的な発展につながり、望ましい
- ☐ ⑥外国人向けの施策、インフラが必要になるなど、社会的な負担が増えるので、望ましくない
- ☐ ⑦わからない
- ☐ ⑧その他
- ☐ ⑨無回答

(在住外国人への期待)

設問 地域を在住外国人とともに暮らしやすい社会にするため、在住外国人にどのようなことを期待しますか。(1つに○)

在住外国人への期待は「日本の法律、生活ルール、習慣を守ってほしい」という回答が 63.5%で最も多くなっています。次いで「地域住民との交流や地域の活動に参加してほしい」という回答が 12.5%、「生活の中で感じたことを提案、発言してほしい」という回答が 9.1%などとなっています。

地域別にみると、「日本の法律、生活ルール、習慣を守ってほしい」と答えた人の割合は、西三河地区で高くなっています。



- ☐ ①日本の法律、生活ルール、習慣を守ってほしい
- ☐ ②日本語や日本の文化を学んでほしい
- ☐ ③地域住民との交流や地域の活動に参加してほしい
- ☐ ④外国の言葉や文化を教えてほしい
- ☐ ⑤生活の中で感じたことを提案、発言してほしい
- ☐ ⑥特になし
- ☐ ⑦その他
- ☐ ⑧無回答

(日本人や日本社会で理解できないこと)

設問 日本人の行動や社会システム、法律や交通ルールなどで最も理解できないこと、または戸惑ったことは何ですか。あれば、お書きください。

記入の内容を分類すると、以下のとおりです。

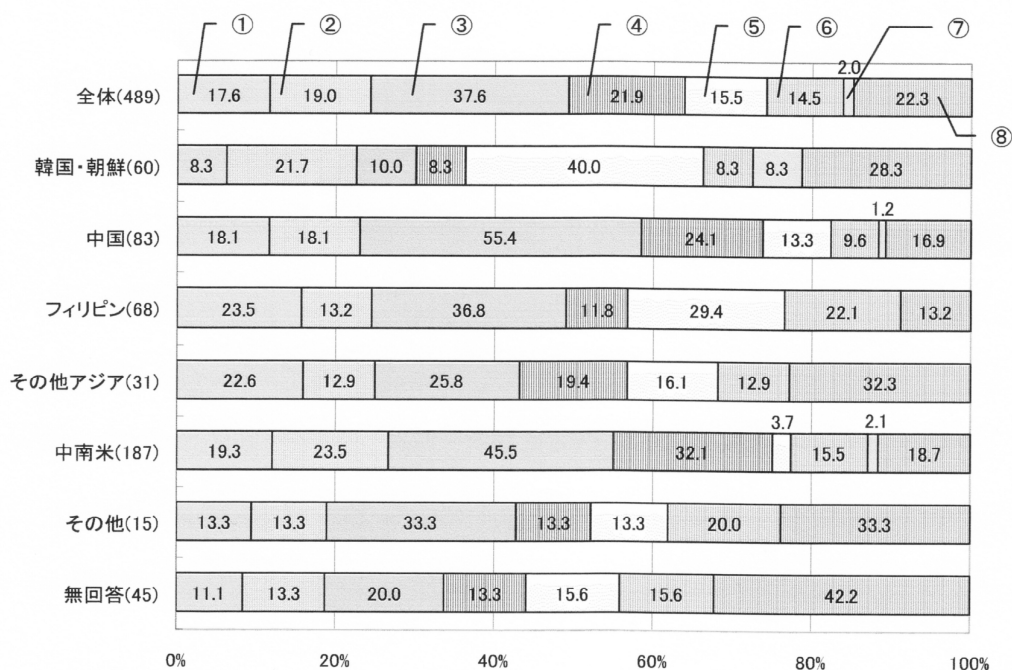
内 容	件 数
行動・国民性	18
法律・規律	15
政治・参政権	9
言葉	8
仕事・就職	8

内 容	件 数
差別・偏見	6
犯罪	4
文化・行政	3
その他	10

(県や市による緊急時の対策)

設問 緊急時の対策として、県や市でどのようなことをしてほしいですか。(2 つまで○)

県や市による緊急時の対策は「緊急時に多言語で放送する」という回答が 37.6%で最も多くなっています。次いで「避難場所での外国語の相談や情報提供」という回答が 21.9%、「避難場所の案内を分かりやすくする」という回答が 19.0%などとなっています。



()内は有効回答数

- | | |
|--|---|
| ☐ ①日ごろの外国人への災害についての広報 | ☐ ②避難場所を分かりやすくする |
| ☐ ③緊急時に多言語で放送する | ☐ ④避難場所での外国語の相談や情報提供 |
| ☐ ⑤災害時の医療体制の充実 | ☐ ⑥災害に対する事前の講習や訓練の実施 |
| ☐ ⑦その他 | ☐ ⑧無回答 |